

# ユニバーサルデザイン視点に基づく「可読性の高いレシート」の提案

## 情報量の最適化と文字サイズの拡大がもたらす、全世代向けの最適解

### 背景と検証アプローチ

97%

の人が日常的に受け取るレシート。しかし現状「見やすい」と感じる人は半数にとどまる。誰もが読みやすいユニバーサルデザインの追求が急務。



#### ① 意識調査

10代～80代の83名を対象に実施。現状のレシートに対する不満要因と、必要とされる重要項目を抽出。



#### ② 評価実験

20代～60代の38名を対象。抽出データを基に「情報量」と「文字サイズ」を操作した全12パターンのサンプルを制作・提示し、分散分析(ANOVA)による多角的な検証を実施。

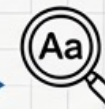


### 実験結果と「見やすさ」の法則



#### ① 情報量の削減 (最重要)

分散分析の結果、可読性に最も大きな影響を与えた主効果。アンケートで「重要」とされた項目(商品名、金額など)のみに情報を絞り込むことで、正答率と見やすさの評価が劇的に向上した。



#### ② 全体文字サイズ1.2倍

「情報量削減」と組み合わせることで最大の効果を発揮。特に30代以上の層において、全体の文字サイズが大きいほど内容把握(正答率)が明確に向上する結果となった。

#### 今後の展望

今回明らかになった要素に加え、今後は「フォントの種類」「字間」「行間」などの要素をさらに広範な年齢層で検証することで、より完成度の高いデザイン解の導出が期待される。